

雜 報

◎人 事

正四位勳二等 好 本 節
 正四位勳二等 田 村 於 兎
 敍從三位
 岡山醫科大學助教授 難 波 驥 逸
 本俸十級俸下賜
 岡山醫科大學助教授 黒 田 章 夫
 本俸八級俸下賜
 岡山醫科大學教授 清 水 多 榮
 從四位勳三等
 任岡山醫科大學長兼岡山醫科大學教授
 敍高等官一等
 岡山醫科大學長兼
 岡山醫科大學教授 田 村 於 兎
 免本官專任岡山醫科大學教授
 岡山醫科大學長 清 水 多 榮
 賜二級俸
 岡山醫科大學教授 清 水 多 榮
 補岡山醫科大學臨時附屬醫學專門部主事
 岡山醫科大學教授 田 村 於 兎
 賜本俸一級俸
 職務俸金千參百圓下賜
 年俸六百圓加賜
 岡山醫科大學臨時附屬醫學專門部主事ヲ免ス
 岡山醫科大學教授 林 道 倫
 陞敍高等官一等
 正六位勳四等 田 村 權 五 郎
 從四位勳四等 柿 沼 吳 作
 敍勳三等授瑞寶章
 臺灣總督府醫院醫長 岩 崎 武
 依願免本官

(九月十五日)

(一月二十五日)

(一月三十一日)

(二月三日)

(二月三日)

(二月十日)

(二月十四日)

(二月二十一日)

○佐藤信也君 豫て岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室及び生理學教室に於て研究中なりし同君は先般神戸市兵庫區神戸電氣局共濟組合病院に勤務せられたり

○鮫島宗雄君 は今般南洋廳ボナペ醫院官舎に移轉せられたり

妹尾弘君逝く 君は東京醫學專門學校を卒業し岡山醫科大學衛生學教室に於て研究中なりしが近來健康を害し静養に力められしが其の效なく本月5日遂に永眠せられたり寔に痛惜に堪へず謹みて茲に弔意を表す

花室憲章君逝く 君は大正9年岡山醫學專門學校を卒業し臺灣總督府臺北醫院に勤務し臺灣總督府醫學專門學校教授に進み辭職後は川崎市日本鋼管會社病院長に就任し居られしが近時病氣の爲靜養中なりしも醫藥其效を奏せず本月7日遂に永眠せられたりと寔に痛惜に堪へず謹みて茲に弔意を表す

◎學位授與

次の8君は豫て岡山醫科大學へ論文を提出し學位を請求し居られしが割註の如く孰れも醫學博士の學位を授與せられたり

氏 名	教授會通過年月日	學位授與年月日
宮 地 重 樹	昭和14年12月4日	昭和15年2月5日
高 橋 熊 夫	同 上	同 上
藤 井 敏 夫	同 上	同 上
中 田 富 士 男	同 上	同 上
小 山 綾 夫	昭和14年12月18日	昭和15年2月28日
西 村 正 治	同 上	同 上
坂 中 只 一	同 上	同 上
北 山 三 郎	同 上	同 上

其主論文並に参考文献は次の如し

宮地重樹君

主論文

熊ノ膽汁酸=就テ

其1. 「ウルソ、デゾオキシ、ヒヨール」酸ノ合成
=就テ(獨逸生理化學雜誌第250卷第1號=發表ス)

其2. 熊膽汁ヨリ「グリコウルソ、デゾオキシヒヨール」酸ノ分離=就テ(同上)

参考文献

其1. 家兎體內ニ於ケル β -デヒドロ、ヒオデゾオキシヒヨール」酸ヨリ β -3,6-デオキシ、アロヒヨラン」酸ノ生成=就テ(獨逸生理化學雜誌第254卷第2號=發表セリ)

其2. 「ヘノ、デゾオキシヒヨール」酸ヨリ得タル「ヒヨラデイエン」酸=就テ(外字生化學雜誌第26卷第2號=發表セリ)

其3. α -及 β -3,ケト、ワ、オキシ、ヒヨラン」酸=就テ(井坂英雄ト共著)(外字生化學雜誌第30卷第2號=發表セリ)

其4. 熊膽汁酸ノ知見補遺(木村敏三ト共著)(外字生化學雜誌第26卷第2號=發表セリ)

其5. 各種六炭糖誘導體ヨリノ肝臟糖原質生成=及ボス膽汁酸ノ影響(木村敏三、石原徳春、新宅哲夫、杉山五郎共著)(岡山醫科大學歐文業府第5卷第4號=發表ス)

高橋熊夫君

主論文

抱合膽汁酸分解酵素=就テ

其1. 「ビール」酵母中ノ「グリニ、ヒヨラーゼ」
=就テ(昭和12年和蘭「エンチモロギヤ」誌第3卷ノイベルグ氏記念號=發表セリ)

其2. 諸種臟器並ニ組織内ニ於ケル抱合膽汁酸分解酵素=就テ(岡山醫科大學歐文業府第6卷第2號=發表セリ)

其3. 諸種臟器各種細菌並ニ酵母体内ニ於ケル

抱合膽汁酸分解酵素=就テ(和蘭「エンチモロギヤ」誌第6卷第4號=發表セリ)

参考文献

其1. 「タウロ、アボ、ヘノ、デゾオキシヒヨール」酸=就テ(獨逸生理化學雜誌第255卷第6號=發表セリ)

其2. 「ヘノ、デゾオキシヒヨール」酸=對スル濃鹽酸ノ作用=就テ(山崎三省ト共著)(獨逸生理化學雜誌第256卷第1號=發表セリ)

其3. 「イソ、デオキシヒヨレン」酸並ニハンマーステン氏反應(「ヒヨール」酸)ノ知見補遺(山崎三省、金在興ト共著)(外字生化學雜誌第30卷第2號=發表セリ)

其4. 肉食動物膽汁ノ知見補遺
水類、狐及ビ鼬ノ膽汁酸=就テ(金在興、申台植ト共著)(外字生化學雜誌第29卷第1號=發表セリ)

其5. 偶發性氣胸=就テ(實地醫家ト臨牀第13卷第3號=發表セリ)

其6. 本院ニ於ケル肺結核患者ノ咯血=關スル統計的觀察(天兒民博ト共著)(大阪醫事新誌第9卷第7號=發表セリ)

藤井敏夫君

主論文

流行性腦炎病毒ノ研究

第1編 流行性腦炎患者血液並ニ腦髓液中ノ病毒ノ消長=就テ(日本傳染病學會雜誌第13卷第5號=發表セリ)

第2編 流行性腦炎恢復者ノ血中免疫體ノ長期的觀察(日新醫學第28年第6號=發表セリ)

第3編 流行性腦炎ニ關スル細胞結合反應(東京醫事新誌第3124號=發表セリ)

参考文献

1. 日本流行性腦炎患者ノ血液及ビ脊髓液内ノ病毒ノ消長(東京醫事新誌第3143號=發表セリ)

2. 流行性脳炎病毒ノ研究

流行性脳炎病毒證明率ト血液像竝ニ腦脊髄液所見 (日本傳染病學會雜誌第 13 卷第 6 號ニ發表セリ)

3. 所謂線狀體血液症候ニ就テ (本誌第 50 年第 3 號ニ發表セリ)

4. Paratyphus-B ト赤痢トノ混合感染症例 (本誌第 51 年第 6 號ニ發表セリ)

中田富士男君

主論文

「ヒスタミン」ニ關スル研究

第 1 編 血液組織間物質交代現象ニ及ボス「ヒスタミン」ノ影響ニ就テ (日本消化機病學會雜誌第 38 卷第 12 號ニ發表セリ)

第 2 編 血液組織間物質交代現象ニ及ボス「ヒスタミン」ノ影響ト網狀織内皮細胞系統トノ關係ニ就テ (追テ日本消化機病學會雜誌ニ發表ノ豫定)

參考論文

1. 健康人及ビ正常家兎ノ血中「ヒスタミン」量ニ就テ (追テ日本消化機病學會雜誌ニ發表ノ豫定)
2. 各種疾患患者血中「ヒスタミン」量ニ就テ竝ニ血中「ヒスタミン」量ニ對スル脾臟剔出ノ意義 (追テ日本消化機病學會雜誌ニ發表ノ豫定)
3. 肺結核患者血中「ヒスタミン」量竝ニソレト赤血球沈降速度反應トノ相互關係ニ就テ (追テ日本消化機病學會雜誌ニ發表ノ豫定)
4. 剖檢セル症候性「アグラノチトーゼ」ノ 1 例 (木村勉ト共著) (本誌第 52 年第 2 號ニ發表セリ)
5. 所謂線狀體血液症候ニ就テ (藤井敏夫ト共著) (本誌第 50 年第 3 號ニ發表セリ)

小山綾夫君

主論文

盲斑ノ研究

第 1 編 正常盲斑ノ統計的研究 (日本眼科學會雜誌第 43 卷第 11 號ニ發表セリ)

第 2 編 盲斑位置ト諸種眼科計數トノ關係 (日本眼科學會雜誌第 43 卷第 12 號ニ發表セリ)

第 3 編 盲斑位置ト眼位トノ研究 (日本眼科學會雜誌第 43 卷第 7 號ニ發表セリ)

第 4 編 調節ノ盲斑大サニ及ボス影響 (追テ日本眼科學會雜誌ニ發表ノ豫定)

參考論文

1. 特種暗點ヲ證明シタル上顎洞蓄膿ニ依ル鼻性視神經炎 3 例ニ就テ (實驗眼科雜誌第 217 號ニ發表ス)
2. 上顎洞炎患者ニ於ケル特殊中心外暗點ニ就テ (實驗眼科雜誌第 216 號ニ發表セリ)
3. 紅色母斑ニ合併セル綠内障ノ 1 例 (中央眼科醫報第 29 卷第 9 號ニ發表セリ)
4. モルガン氏白内障ニ於ケル特發性水晶體破裂ニ依リ續發性綠内障ヲ起セル 1 例 (中央眼科醫報第 29 卷第 10 號ニ發表セリ)
5. 眼高粘液肉腫ノ 1 例 (實驗眼科雜誌第 179 號ニ發表セリ)
6. 白内障手術後起レル慢性葡萄膜炎ノ 1 剖檢例 (眼科臨牀醫報第 29 年第 12 號ニ發表セリ)

西村正治君

主論文

新産兒假死ニ及ボス輸血ノ影響ニ關スル實驗的研究

第 1 編 肺臟性假死ニ及ボス輸血ノ影響 (本誌第 51 年第 3 號ニ發表セリ)

第 2 編 腦性假死ニ及ボス輸血ノ影響 (追テ本誌ニ發表ノ豫定)

第3編 心臟性假死=及ボス輸血ノ影響 (追テ本誌=發表ノ豫定)

第4編 新産兒假死=對スル輸血ノ臨牀的應用 (追テ本誌=發表ノ豫定)

參考論文

1. 産褥熱=對スル輸血療法ノ經驗 (臨牀日本醫學第8卷第8號=發表ス)
2. 褥婦基礎代謝=關スル知見補遺 (井上正之共著) (本誌第48年第1號=發表セリ)
3. 女子生殖器腫瘍ノ併發=就テ (臨牀産科婦人科第11卷第2號=發表セリ)
4. 6歳ノ少女=發生セル尿道脱胎驗例 (産科婦人科紀要第20卷第4號=發表セリ)
5. 不妊症子宮發育不全症患者ノ基礎新陳代謝竝=血中「カルシウム」及ビ無機磷量=關スル知見補遺 (石川昂, 赤松金四郎, 高原章夫共著) (臨牀産科婦人科第14卷第4號=發表セリ)

坂中只一君

主論文

間腦—腦下垂體系ノ研究

- 其1. 大脳視丘下部ノ細胞學的研究 (精神神経學雜誌第43卷第6號=發表ス)
- 其2. 間腦腦下垂體系ノ解剖學的連絡=就テ (精神神経學雜誌第43卷第8號=發表ス)

參考論文

赤痢=關スル研究

1. 岡山市=於ケル赤痢及ビ疫痢様疾患ノ細菌學的觀察 (日本傳染病學會雜誌第13卷第8號=發表セリ)
2. 岡山市=於ケル赤痢及ビ疫痢様疾患ノ臨牀學的觀察 (本誌第51年第6號=發表セリ)
3. 赤痢患者=於ケル糞便ノトリブーレ氏反應竝=赤血球沈降速度=就テ (日本傳染病學會雜誌第13卷第10號=發表セリ)

4. 赤痢患者=於ケルグイダール氏反應 (本誌第51年第8號=發表セリ)

5. 「バラチフスB症」ト赤痢トノ混合感染症例 (藤井敏夫共著) (本誌第51年第6號=發表セリ)

北山三郎君

主論文

膽汁ノ排泄及ビ吸收異常ノ内分泌諸臟器=及ボス影響=關スル實驗的研究

- 其1. 持續的膽汁瘻ノ甲状腺竝=上皮小體=及ボス影響 (追テ日本外科學會雜誌=發表ノ豫定)
- 其2. 持續的膽汁瘻ノ副腎=及ボス影響 (追テ日本外科學會雜誌=發表ノ豫定)
- 其3. 持續的膽汁瘻ノ肝臟=及ボス影響 (追テ日本外科學會雜誌=發表ノ豫定)
- 其4. 膽汁瘻内分泌臟器=對スル「グイガントール」ノ影響 (追テ日本外科學會雜誌=發表ノ豫定)
- 其5. 膽汁鬱滯ノ内分泌諸臟器=及ボス影響 附. 全編ノ概括竝=考按 (追テ日本外科學會雜誌=發表ノ豫定)

參考論文

- 其1. 腸結核ノ外科的療法ト肺合併症=就イテ (消化器病學第1卷第4號=發表セリ)
- 其2. 血友病性關節症ノ症例 (本誌第50年第7號=發表セリ)
- 其3. 口腔底=出現セル腺上皮瘻ノ1例 (本誌第48年第4號=發表セリ)
- 其4. 腎周圍膿瘍ノ2例 (實地醫家と臨牀第13卷第5號=發表セリ)
- 其5. 脚氣尖足ノ外科的療法=就イテ (東京醫事新誌第2948號=發表セリ)



マーシャル群島土人の 民間治療法

南洋羣島ベナ醫院

鮫島宗雄

人間は404病の器、何れの地方でも昔から病氣をすればそれに對する治療法といふものはあつたものでせう。私は次に少し變り種のマーシャル群島土人の民間治療法を御紹介に及びます。之は家元に於て代々口授に依て傳はつたもので、門外不出の秘法として珍重がられてゐるものですが、私が家元に乞ふて洩らして貰つたものなのです。

和漢藥は固より、ありとあらゆる民間治療の跳梁跋扈する世に、この土民藥の登場も亦不都合ではなからうと存じます。騙の頭も信心からと申します。決してたわいもない迷信ごととお笑ひ下さいますな。土人の病氣はこれで結構治るといはれます……。

處方

(1) 咳の藥 1

「アタート」と稱する草を1寸の長さに3つに切り、其の花を3つ取つて一緒に摺つぶし、搾り、椰子の水を加へ茶匙で3杯用ふ。3日間連用して全然効果がなければ他の藥に更へる。少し效いた時は1日休藥して又3日間連用する。

(2) 咳の藥 2

鹽水と雨水と等分に混じて煮沸して飲用する。

(3) 胸痛の藥

「キノ」と稱する草が3本生へてゐるのを取り、「タコ」の實の芽の3つ出たのと、「ネンタカタカ」草の6吋のものを3つに分けたものと、「ウデイロマル」(木の名)のまだ花の咲かないものの葉を向いてゐるもの1つ、以上4種を混ぜ摺りつぶし鹽水少量(此鹽水は引潮の時の流れを掘つて椰子の殻に1吋の高さにとる)に溶かして塗布する。3日間。

(4) 頭痛の藥

「ネン」(木の名)の葉の赤いの(枯れ葉)3つ、青いの3つを潰して椰子殻に1.5吋の高さの鹽水を混じ朝晝晩3回塗布する。3日間。

(5) 腰痛の藥

「キョブ」草の若芽を1吋づつの長さに6つに切り、つぶして搾り、鹽水と混じて塗擦する。

(6) 腹痛の藥

「アイク」と稱する流木を削り、椰子果肉と混和し極少量内服する。又之に椰子油を混じ腹壁に塗布する。

(7) 齒痛の藥

「キリン」の木の葉についてゐる蝸牛殻と、「ウデイロマル」の葉根についてゐる小さな芽を2つとを摺潰して齧齒に入れる。

(8) 耳痛の藥

「マルクネンチヨウジヨ」草の若芽(2つになつてゐる)を3組とり、同じく大きな葉を赤いの3つ青いの3つと共に摺潰し、「マゴモツク」の若い莖の中に含む水を混ぜ耳内に注入する。

(9) 萬能鎮痛藥

「アタート」草の若芽の皮をむぎ3つに分れてゐるのを取り(減多にない)、「カンナツト」(木の名)の葉の赤いの3つ青いの3つ、以上摺り混ぜて搾り適當の鹽水を混じ使用する。飲用するも塗布するも可。3日間連用。

(10) 下痢止

「マゴモツク」(球根より取りたる澱粉)を生のまま

ま水にとかして「コツブ」に少量づつ1日3回服用。

(11) 下疳の薬 1

「エツケン」(木の名)の葉を青いの6つ赤いの(枯葉)6つ「バナナ」の若い幹を6時の長さに切り、之等を摺潰して搾り、雨水「コツブ」1杯を加へ沸かして1日數回内服。3日間連用。

(12) 下疳の薬 2

「ネン」の木の實の熟したのを3つとり、水を「コツブ」3杯加へ煎じて朝1回服用。3日連用。

(13) 眼薬

「ケンナツト」(木の名)の花の蕾3つ咲いたの3つ潰して布に包み椰子の實のまだ肉の出来ない若いの水に溶かして點眼する。1日3回。

(14) 淋病薬

「ウデイロマル」の木の皮をむき、3枚の皮の内側の皮を削りとり布に包み雨水にぬらして搾り1日3回内服。

(15) 辜丸炎

椰子の木の幼少なのに生ずる椰子筍を6時の長さに切り、「マゴモツク」の球根を3つ削り「コツブ」3杯の水を加へ搾り陰囊につける。

(16) 「フランベシヤ」の薬

「コブラ」(椰子の果肉)を削つて搾り、沸かし熱いまま塗布する。

(17) 魚中毒

「キョブ」草の6時の長さにとり、潰し「コブラ」を半分削つて水に濡らし搾り飲用せしむ。頓服として用ふ。吐劑。

(18) 濕疹の薬

「ウデイロマル」の木の實が落ちて發芽する際其の芽をとり、潰し「コブラ」を削つて加へ搾つた汁をつける。

(19) 木から落ちた時の處置

「ブリブリカチ」草を澤山取りつぶし6つの袋に入れ、又「コブラ」を削り之も6つの袋に入れ、大きな穴を掘つて厩を敷き水を入れ、其の中に人をつけ、上の2種類のもを搾り込む。3日間入浴せしめ、1週間後より按摩を初む。

(20) 傷薬

「ウヂツク」草を潰して傷につけ繃帯する。「メロジエツチ」「キレン」草等も同様にして用ふ。

(21) 化物憑きの薬

「ネン」の木の若芽(2つ1組)を3組と「キノ」草の若葉を3つと潰して胸又頭に貼用する。

又マーシャルには「キジョコラン」と稱する憑物病氣があるさうである。昔ある男が大勢を相手に戦つて恨みをのんで死んだ。母が尋ね探し乍ら呪文の歌をうたつてみると、其の男がお化となつて現れた。この惡靈にたたられると、きまつて朝6時から12時迄と午後3時から6時まで腹痛で惱まされるといふ。この病氣には「タコ」の若芽を3組(2つ1組のもの)を搾りつぶして椰子の水と共に服用する。

以上の外にまだ色々の處方がありますが、貴重な紙面を塞いですみませんから、これ位で止めます。